巻頭言

病院誌第 25 巻発刊に寄せて

病院長　**石橋　悟**

「なぜ，病院誌を発行し続けるのか？」

無くても病院業務に支障がないものは積極的にやめていきたいと思う中，病院誌はどういうわけかすんなりと廃止できず，その引っ掛かりを存在意義に求めていました．そんな時，病院の図書コーナーの一角に，日本赤十字社看護師同方会の機関紙である「同方」の復刻版昭和 9 年 1 月号を見つけました．当時の副社長の新年の挨拶を巻頭に，「看護婦に必要なる化学の知識」というシリーズもの，「治病の三要素＝医療と看護と養生」というコラム，そして，症例報告や論文など掲載内容は多彩でした．

その中に，看護婦会長が投稿した「若年の女性に忠言す」，其の一　操守に就いて，其の二　思想について　という論文がありました．読み進むにつれて，1934 年と 88 年後の 2022 年の時間軸上に，普遍性と特殊性が交差する感覚を感じて，思わず唸ってしまいました．あ，そうか，これか．

現在だけに存在意義を求めていたことで，可能性を狭めていたかもしれません．残しておくと，未来いつか誰かの何かになるかもしれない．今，病院誌を編集しておくことの意味を一つ見つけました．